

臨床研究

「多職種連携による胸腔鏡手術スコープオペレーター業務導入と教育体制の構築」のご協力をお願い

1. 研究の概要

1) 研究の目的

本研究は、医師の働き方改革の一環として進められているタスク・シフト／シェアの取り組みを背景に、当院で導入した臨床工学技士（CE）による胸腔鏡手術（VATS）のスコープ操作業務（スコープオペレーター業務）の教育体制と運用の成果を検証することを目的としています。具体的には、教育プログラムの妥当性や安全性を評価し、医師・看護師・臨床工学技士などが協働して安全かつ効率的に手術を行うための体制づくりに役立てることを目指しています。

2) 研究の意義・医学上の貢献

本研究は、医師だけでなく臨床工学技士などの多職種が協力して手術を支える新しいチーム医療の形を示すものであり、今後の医療現場における人材育成や業務分担のあり方を考えるうえで重要な意義を持っています。

胸腔鏡手術におけるスコープ操作を臨床工学技士が安全に担えることを明らかにすることで、医師の負担軽減と手術の質の維持・向上を両立できる体制づくりに貢献することが期待されます。

また、本研究の成果は他施設での教育体制や業務分担モデルの参考となり、全国的なチーム医療の発展に寄与することを目指しています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2022年5月1日～2024年5月31日に当院で胸腔鏡手術（VATS）を受けられた患者さんを対象としています。新たな検査や治療を行うことはなく、診療記録に基づく後方視的な解析を行います。

2) 研究期間

病院長による許可日～2026年4月30日です。

3) 予定症例数

約170例の胸腔鏡手術症例を対象とし、臨床工学技士がスコープ操作を担当した症例と、医師が操作を行った症例を比較・検討します。

4) 研究方法

本研究は、既存の診療情報を用いた 後方視的観察研究 です。
臨床工学技士によるスコープ操作導入前後の手術成績を比較し、手術時間や合併症の有無などを解析します。研究対象者への新たな介入や侵襲は一切行いません。

5) 使用する情報

患者さんの診療録（カルテ）、手術記録、麻酔記録、看護記録などに含まれる以下の情報を利用します。年齢、性別、基礎疾患などの背景情報や手術に関する情報（手術時間、出血量、ドレーン抜去日、在院日数、合併症の有無）を使用します。これらの情報は匿名化され、個人を特定できない形式で解析を行います。

6) 情報の保存、二次利用

本研究で得られた情報は、匿名化したうえで厳重に管理し、研究終了後も関連法令および当院の規定に従って一定期間保管します。

研究終了から 5 年を目安に、必要な保存期間を経過した後は、安全な方法で完全に廃棄します。

また、得られた情報は本研究の目的以外には使用せず、二次利用を行う場合には改めて倫理審査委員会の承認を受けます。

7) 情報の管理責任者

本研究で使用する情報の管理責任者は、

NTT 東日本札幌病院 診療支援部 臨床工学室 須藤 徹 です。

研究データの匿名化・保管・利用状況については、研究責任者の監督のもとで適切に管理します。

8) 研究結果の公表

研究の成果は、学会発表や学術論文として公表する予定です。

公表の際には、個人を特定できる情報は一切含まれません。

本研究の成果は、手術業務の安全性向上および多職種協働の推進に役立てられることを目的としています。

9) 研究に関する問い合わせ等

本研究に関するご質問やご意見、またはご自身の診療情報を研究対象から除外したい場合は、下記までご連絡ください。

ご連絡いただいた時点で、あなたを特定できる情報がすでに削除されて研究が実施されている場合や、個人が特定できない形ですでに研究結果が学術論文などに公表されている場合は、解析結果からあなたに関する情報を取り除くことが出来ないで、その点はご了承ください。

問い合わせ先

NTT 東日本札幌病院 診療支援部 臨床工学室 須藤 徹

(指導責任者：呼吸器外科 部長 道免 寛充)

〒060-0061 北海道札幌市中央区南 1 条西 15 丁目

電話：011-623-7000